

## 病害虫発生予察特殊報第2号

**病名** キクえそ病  
**病原菌名** トマト黄化えそウイルス (*Tomato spotted wilt virus* : TSWV)

### 1 発生経過

平成9年8月、諏訪郡富士見町立沢の露地ギクで、葉にえそ斑、茎にえそ条斑を生じ、ウイルス病と見られる障害が発生した。発病株数は少なかったが、発病株では上位葉の葉枯れ及び茎にえそが発生するため、商品価値は著しく低下した。病徴が、隣接県で発生しているえそ病と類似していたため、TSWV-Oのモノクローナル抗体を用いたDas-ELISA法で検定したところ、陽性反応を示したため、本病と同定した。

### 2 発生生態

本ウイルスは、アザミウマ類によって永続伝搬されるウイルスであるが、経卵伝染は確認されていない。また、種子伝染、土壌伝染はしないが、汁液接種では比較的容易に伝染するので、自然界では汁液伝染する可能性がある。日本での初めての分離植物はダリアであり、宿主範囲は広く、全身感染する植物として、ナス科、キク科、マメ科、アカザ科植物等が報告されている。

### 3 発生状況

現在、本ウイルスの発生が確認されたのは、富士見町のキクの1ほ場だけで、栽培面積は1.6aであった。聞き取り調査によると、このほ場ではアザミウマ類(種類不詳)の発生が周辺ほ場に比べると多かったということである。

県内で本ウイルスの発生が懸念される作物としては、トマト、なす、ピーマン、ほうれんそう、ガーベラなどである。

### 4 病徴と診断

キクにおける病徴は、葉に退緑斑やえそ斑、えそ輪紋を生じ、茎にもえそ条斑を生じる。発病葉はやがて黄化して枯死する。また、発病株は健全株に比べて著しく生育不良となる。発病は出蕾期に多い傾向がある。

半身萎凋病でも葉の黄化を伴うが、半身萎凋病では下位葉から徐々に上位葉へ病徴が進展するのに対し、えそ病の場合は上中位葉から発病することや、茎えその有無を確認することで区別が可能である。

### 5 防除対策

- (1) 本ウイルスを伝搬するミカンキイロアザミウマ等のアザミウマ類の防除を徹底する。
- (2) 親株は健全株を用いる。
- (3) 発病株は二次伝染源となるので、見つけ次第抜き取り処分する。
- (4) 雑草は本ウイルスの重要な伝染源となっているため、周辺部を含めほ場衛生を徹底する。